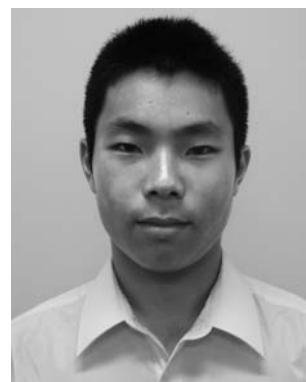




中川根中学校2年
鈴木悠斗さん



中川根中学校2年
中村大成さん



中川根中学校2年
田旗栄太さん



中川根中学校2年
澤口初音さん



中川根中学校2年
小林実嵩さん



中川根中学校2年
長嶋玲穂さん

人の温もりを感じた10日間

ホストファミリーは、僕を温かく迎えてくれるだろうか。不安なままホームスティ先に到着して、緊張しながら自己紹介すると、ホストファミリーは握手してくれ、すぐに打ち解けることができました。休日には湖、ウォーターパーク、教会にも行きました。教会のにぎやかさには驚きました。ホストファミリーと過ごした時間はとても楽しいものでした。ファミリーとたくさん触れ合うことができ、人の温かさを感じることができた10日間となりました。

思いを伝えることの大切さ

僕が一番心配していたのは、10日間一緒に過ごすホストファミリーのことでした。でも会った瞬間、「ハロ―大成」と握手を求めてきたファミリーのお父さんの顔を見たら、今までの心配は全部消えていました。最初は聞きとることも話すこともできなかった英語ですが、思いを伝えようとジェスチャーを交え積極的に話しかけました。すると徐々に理解できるようになり、会話が楽しくなりました。さまざまなことを学び、体験することができました。

中学生海外英語研修に参加

僕は、カナダへ向かう飛行機の中で機内放送を聞いた瞬間に鳥肌が立ちました。まるで何を言っているのかわかりません。外国人は、皆こんなに早口なのか、果たして会話なんてできるのだろうか…。そんな不安がよぎりました。現地の学校でも、ホームスティ先でも「ワンスモアブリーズ」の繰り返しでしたが、先生もホストファミリーも優しく教えてくれ、とても安心しました。いつかカナダの友達をつくって、カナダを楽しみたいと思っています。

優しい心遣いがうれしかった

期待と不安いっぱいだった今回の研修。案の定、私はすぐに日本の家族が恋しくなりました。するとさみしそうな私を見て、ホストファミリーの父は毎朝「おはよう!」と声をかけてくれ、日常の会話でも常に私を気にかけてくれました。分からない言葉は辞書やパソコンを使って翻訳してくれ、何とか私とコミュニケーションをとろうとしてくれました。そんな優しい心遣いがとてもうれしかったです。この経験を、これからの生活に生かしたいと思います。

ホストファミリーとの日々

今回の研修で、私の心に残っていることが2つあります。1つは、ホストファミリーとバスケットをしたこと。言葉の壁はあったけれど、スポーツを通して、コミュニケーションをとることができました。もう一つはホストファミリーと過ごした休日です。現地の祭りに連れて行ってもらい、日本ではあまり見られない光景をたくさん見ることができました。私にとってこの10日間は、一生心に残る思い出になりました。

コミュニケーションの大切さ

カナダの文化や日本との違いを実感することができた研修でした。私は英語が得意ではありません。でも言葉だけでなく、ジェスチャーを交えれば気持ちが伝わるということを知りました。ホストファミリーと会話できた時は本当にうれしかった。特にホストファミリーが連れて行ってくれたウォータースライダーは印象に残る思い出でした。またカナダへ行く機会があったら、今度はもっとコミュニケーションがとれるようにしたいと思います。

ホストファミリーの笑顔を見た瞬間、心の中の不安は消えた…

13回目の海外英語研修
本町は旧町の時代から、中学生を対象とした海外英語研修を実施してきました。10代前半の感受性豊かな時期に、異国の文化や生活習慣に触れることで語学力を磨き、国際性をはぐくみ、さらには本町の良さを再発見するなどの狙いがあります。本事業は合併以前の平成9年度からスタートし、本年度で13回目を迎えました。研修先はカナダ・ブリティッシュコロンビア州・バンクーバー。カナダとアメリカの国境沿いにある、自然豊かで海が美しい町が舞台です。8月1日。涙を見せる家族に見送られ、本川根中学校、中川根中学校からの参加者18人は、笑顔を見せながら元気にカナダへと旅立ちました。異国の地。通じない言葉、異なる文化、慣れない環境に戸惑いながらも、さまざまな経験を通して一回り大きくなった子どもたち。8月10日、家族と対面し、元気な笑顔を見せました。

現地の学校で英語の授業を受ける生徒たち。生き生きとした表情が充実した研修であることを物語る

